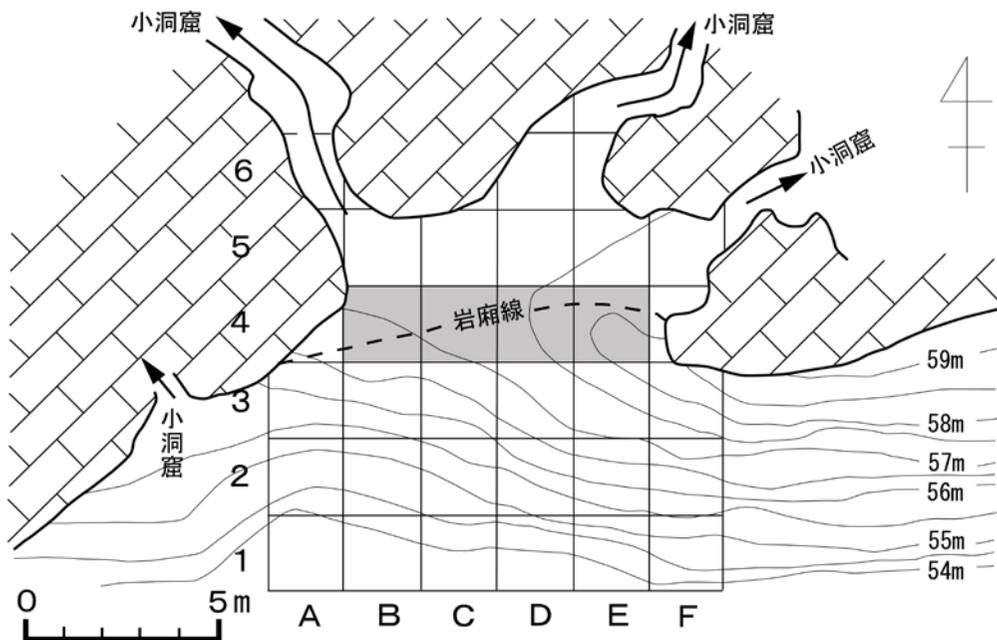




2010年度 帝釈峡遺跡群発掘調査 Ⅱ期（8月17日～23日）

帝釈大風呂洞窟遺跡（第15次）の調査

帝釈大風呂洞窟遺跡は神石郡神石高原町永野字大風呂に所在する洞窟遺跡です。第Ⅱ期の調査では、第Ⅰ期に引き続きD・E-4区の調査を行い、加えてC-4区の調査を開始しました。D・E-4区では第5層の調査をⅠ期よりさらに進めています。第5層は遺跡の東西ともに岩壁寄りでは高く、洞窟の中央部では低い、窪地状になっている層で、縄文時代の早期～草創期（8000



第1図 帝釈大風呂洞窟遺跡調査区配置図
(網掛け部は第Ⅱ期の調査範囲)

～12000年前)の資料が出土します。今回の調査では、掘った土を川で篩にかけて遺物の見逃しが無いかをチェックする作業で、石器を製作する際に出る安山岩や黒曜石の破片などが見つかりました。これらの遺物は、この層が地表面であった当時、この地で人々が活動していたことを物語っています。



写真1 発掘調査風景

C-4区では、第5層とその下の第6層がどのように堆積しているかを確認する調査を行いました。第6層は旧石器時代(～12000年前)にあたる層で、遺跡の西半部の調査では人工遺物は出土しませんが、絶滅した動物や現在では日本に棲んでいない動物の骨が出土しました。この層は遺跡西半部の調査で縦方向にいくつもの色の土が見られる少し変わった堆積状況が確認された層で、その状況が遺跡の東半に



写真2 堆積状況の検討をしている様子

どのように続くのかを明らかにするために調査を進めています。考古学では、土の性質・色などの違いを見極めて土を分ける「分層」という作業をし、出土遺物からその層の時代がいつまで遡るのかを判断します。そのため、分層はとても重要な作業です。

第Ⅲ期では縄文時代早期～草創期の人々の生活の様子を明らかにすべく、さらに調査に力を入れていきたいと思えます。また、8月28日には大風呂洞窟遺跡の現地説明会を行いますので、お誘い合わせの上、是非ご参加ください。

(甲斐麻衣、山手貴生)

コラム1 『はじめての発掘』

今回初めての発掘調査に参加して、改めて考古学という学問の大変さを知りました。現場に辿り着くまでの道のりは険しく、先輩方について行くのがやっとでした。また、発掘作業自体も体力のいる作業で、初日は10分も経たないうちに足や背中が痛くなってしまいました。食事当番の関係で他の二年生より一歩出遅れてのスタートでしたが、先輩方や二年生の仲間に助けてもらいながら頑張りました。

また、発掘とは別に行った遺物の整理作業では、帝釈弘法滝遺跡の様々な遺物を見ることができました。貝殻や獣骨など珍しいものではなかったかもしれませんが、まだ考古学を学び始めたばかりの私にとってはとても新鮮な経験でした。今後の調査では自分で遺物を見つけてみたいです。（2年 中神恵美）

コラム2 『考古学と古生物学』

帝釈大風呂洞窟遺跡は、後期更新世の哺乳類化石が産出している数少ない遺跡です。私はここで得られた化石を調べて、当時の環境を復元することを目標に研究していこうと思い、愛知教育大学から今回の発掘調査に参加させて頂きました。

日頃は古生物学の研究として、各地の発掘調査に参加していますが、今回は考古学を勉強している皆さんとの発掘ということで、どのような発掘になるか不安と期待でいっぱいでした。考古学と古生物学、似ているようで違う分野を勉強しているのに同じ発掘現場にいられるのが不思議で仕方ありませんでした。しかし発掘を進めていくにつれて、互いに過去の産物を追いかける立場として共有できる気持ちを持っていることに気付きました。また広島大学の皆さんのチームワークの良さに驚かされ、自分も見習わなければいけないと思いました。

そして今回の発掘調査で強く感じたことは、今までの発掘調査の歴史があるから現在の発掘調査を行うことができ、現在の発掘調査があるから未来も発掘調査を続けていくことができる、ということです。この点に関しては考古学にも古生物学にも共通して言えることだと気づき、非常に勉強になりました。今回の発掘調査の経験を元に、これからも研究を続けていきたいと思えます。

（愛知教育大学4年 村田葵）

人物往来

8月20日 広島大学大学院文学研究科M2 矢部俊一さん

参加者名簿（Ⅱ期 8月17日～8月23日）

広島大学大学院文学研究科	教授	古瀬清秀
同上	准教授	竹広文明
同上	大学院生	山手貴生（D2）、谷口早季（M1）
広島大学文学部生		甲斐麻衣・田頭英尚・伯田桂太・松永直輝（3回生） 大村愛海・関内由衣・中神恵美・藤井翔平・森本卓馬・ 森本直人（2回生）
愛知教育大学		村田葵（4回生）
立命館大学		柳原麻子（3回生）

陣中見舞い(50音順)

伊藤尹先生：コーヒー、河村先生：コーヒー、神石高原町教育委員会：ビール・お茶、
中越先生：ビール、西別府先生：ビール、村田さん：ブドウ、矢部さん：焼酎、
弥生食堂さん：スイカ

また、地元の皆様には、今期も物心両面でご支援頂いており、大変感謝しています。この場を借りてお礼申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

編集後記

帝釈峡遺跡群の調査もⅡ期に入りました。Ⅰ期から引き続いて天候にも恵まれ、作業は順調に進んでいます。Ⅱ期からは愛知教育大学で更新世の哺乳類を研究している河村先生門下の学生も合流し、昔の帝釈に棲んでいた動物の調査も始まりました。河村先生には8月18日の夕食後に、沖縄県石垣島白保竿根田原洞窟で出土した後期更新世の人骨について講義していただきました。それによると、石垣島で出土した人骨の年代はおよそ2万年前になるらしく、これまでに国内で確認されている人骨の中では最古だそうです。今回の発見は当時の人々がどのようなルートを通って日本列島に入ってきたのかを明らかにする上で、大変重要な発見です。帝釈峡ではこれまでの発掘調査でたくさんの人骨が出土しましたが、いずれも縄文時代以降のもので、更新世までさかのぼる様な古い人骨は出土していません。なので私は、これからの調査で出土したらいいなあと思いながら日々調査しています。さて、Ⅰ期のいわかげでもお知らせしましたが、8/28(土)に大風呂洞窟遺跡の現地説明会を開催します。お忙しい中とは存じますが、奮ってご参加下さい。（編集 山手）



写真3 河村先生の講義の様子

広島大学考古学研究室 〒739-8522 東広島市鏡山1-2-3 (Tel:0824-24-6663)

帝釈峡遺跡群発掘調査室 〒729-5554 庄原市東城町帝釈末渡野田原 (Tel:08477-6-0101)

研究室ホームページ URL <http://home.hiroshima-u.ac.jp/kouko>